令和7年度　大館市立南中学校　学校評価書（　中間　・　年度　）

【校訓】
すなおに・ただしく・はつらつと・たくましく

【学校教育目標】
なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成

【目指す生徒像】
○すなおに　　明るく、心すなおな生徒
○ただしく　　礼儀正しく、思いやりのある生徒
○はつらつと　　新たなことに進んで活動する生徒
○たくましく　　物事を最後までやり抜く生徒

評価

学校運営の状況	自己評価Aと学校運営委員会評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
		良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
		概ね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
		やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
		努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

生徒の状況	自己評価Aと学校運営委員会評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		概ね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

令和７年度　学校経営の方針

秋田県学校教育が目指すもの
ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり

大館市小・中学校教育推進目標
ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化

北の学校教育の重点
確かな学力を身に付け、「ふるさとを支えていく気概」をもった児童生徒の育成

生徒の実態　生徒の願い

保護者の願い　地域の願い

Ⅰ 本校の教育目標

なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成

【 目指す生徒像（校訓）】

○すなおに　明るく心すなおな生徒
○ただしく　礼儀正しく思いやりがある生徒
○はつらつと　新たなことに進んで活動する生徒
○たくましく　最後まで粘り強くやり抜く生徒

【 目指す教師像 】

○教育公務員として信頼される教師
○チーム南中の一員として積極的に経営に参画する教師
○生徒を愛し教育に情熱を注ぐ教師
○自らのキャリアステージに応じて研修に励む教師
○生徒が夢や憧れを抱くかっこいい教師

Ⅱ 目標具現化の構想

学校教育推進のゴール　**「 自律 」と「 共生 」を基盤とした「 自己実現 」**

運　営

６０周年のその先へ、思いを一つに取り組む職員集団

・意識統一と組織力アップ
・教育活動を支える校務
・ゆるぎない学校安全
・地域とともにある学校づくり

企　画

組織が活性化する企画と調整：教務主任

・教育目標具現のための創意ある教育課程編成
・指導の見通しを保障する計画と予定の提示
・教育効果を上げる日課の工夫と時数調整
・適切な会議設定と指導部・学年部との連絡調整

組織が機能する企画と実践：研究主任

・日常的な仮説検証に基づく研究主題の実現
・諸調査の分析と活用による課題の明確化と焦点化
・教科や指導部の壁を超えた校内研修の充実
・「直耕タイム」を核にした授業改善

指　導

自己実現を支える学力と学び方を育む学習指導部

○基礎学力を高める学習指導
・３つの「あ」３つの「わ」のある授業づくり
・生徒の「？」や「！」を引き出す手立ての工夫
・キャリア発達を促す振り返り
・教師と生徒が一体となった取組の推進
・補充学習の工夫と充実

○主体的行動を支える学びの充実
・考え、議論する道徳の充実と蓄積
・基礎的汎用的能力を育て、ふるさとキャリア教育と関連付けた総合的な学習の時間の充実
・表現力・コミュニケーション能力の育成

○特別支援教育の充実
・ユニバーサルデザインを意識した授業づくり

自己実現の土台となる心身の健康とキャリアを育む生徒指導部

○自己肯定感を育む生徒指導
・生活習慣の確立と共通理解・共通実践
・生徒指導の３つの「み」
・対話を意識した生徒理解
・生徒理解に基づく生徒支援と教育相談
・生徒による自主的・自発的な部活動の支援

○当事者意識を育む特別活動
・共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動
・心を揺さぶる学校行事と生徒会活動
・進路指導とキャリア講話の充実
・心の交流を図る地域ボランティア活動の推進

○未来につながる保健安全指導
・生徒による心身の健康管理や安全活動の推進
・メディアコントロール・情報モラル教育の充実
・外部講師の積極的活用による健康意識啓発

Ⅲ 指導の重点

「自律」と「共生」を生かした「自己決定力」の育成
～共に論じ合い、深め合う全教育活動を軸に～

☆小中共通指導実践のキーワード「あいさつ・歌声・拍手」学習指導の３つの「あ」３つの「わ」生徒指導の３つの「み」

令和７年度　学校評価一覧

大館市立南中学校

大館市学校教育の基本方針　小･中学校教育推進目標	『ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化』
学校教育目標	「なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成」
校訓（目指す生徒像）	「すなおに」　明るく心すなおな生徒 「ただしく」　礼儀正しく思いやりがある生徒 「はつらつと」新たなことに進んで活動する生徒 「たくましく」最後まで粘り強くやり抜く生徒
目指す教師像	「教育公務員として信頼される教師」　「チーム南中の一員として積極的に経営に参画する教師」　「生徒を愛し教育に情熱を注ぐ教師」 「自らのキャリアステージに応じて研修に励む教師」　「生徒が夢や憧れを抱くかっこいい教師」
学校教育推進のゴール 指導の重点	「自律」と「共生」を基盤とした「自己実現」 「自律」と「共生」を生かした「自己決定力」の育成～共に論じ合い、深め合う全教育活動を軸に～

学校評価項目			自己評価Ａ 中間	自己評価Ａ 年度	評価指標		担当する分掌等	実践課題	主な取組
Ⅰ	学校運営 学校管理	教育目標の具現に向け、全教職員が重点を意識し主体的に取り組み、組織が機能している。生徒の安全が守られ学校環境が整えられている。学校運営や学校管理に、保護者や地域と連携して取り組んでいる。			1	組織的運営	校長 教頭 事務	（１）意識統一と組織力アップ	重点の明確化と共通理解・共通実践の強化　学校運営機構や組織の見直し ＰＤＣＡサイクルの確立
								（２）ゆるぎない学校安全	感染症・熊対策等の危機管理と安全確保の徹底　外部機関とのスムーズな連携
								（３）教育活動を支える校務	教育効果を高める予算配分・予算獲得と計画的で適切な執行　施設・設備の管理・維持
					2	地域連携	校長 教頭	（４）地域とともにある学校づくり	ふるさとキャリア教育を根幹に据えた地域との連携強化　ＰＴＡ・体育文化後援会の再構築 南学区学校運営協議会・保小中連携事業・地域コーディネーターとの連携充実 学校報、学年通信、ＨＰ等による情報発信　創立６０周年記念行事の実施
Ⅱ	組織的実践力を高める創意ある企画	全職員の共通理解を図り、指導部や学年部の枠を超えて共通実践がなされている。			3	企画と調整	教務主任	（５）組織が活性化する企画と調整	教育目標具現のための創意ある教育課程編成　指導の見通しを保障する計画と予定の提示 教育効果を上げる日課の工夫と時数調整　適切な会議設定と指導部・学年部との連絡・調整
					4	企画と実践	研究主任	（６）組織が機能する企画と実践	日常的な仮説検証に基づく研究主題の実現　諸調査の分析と活用による課題の明確化と焦点化 教科や指導部の壁を超えた校内研修の充実　「直耕タイム」を核にした授業改善
Ⅲ	自己実現を支える学力と学び方を育む	生徒が学習習慣を身に付け基礎学力を高めている。自分に必要な力を主体的に求め、学びを深めている。			5	学力向上	学習 指導部	（７）基礎学力を高める学習指導	３つの「あ」３つの「わ」のある授業づくり 生徒の「？」や「！」を引き出す手立ての工夫 キャリア発達を促す振り返り　生徒と教師が一体となった取組の推進　補充学習の工夫と充実
								（８）主体的行動を支える学びの充実	考え、議論する道徳の充実と蓄積 基礎的汎用的能力を育てふるさとキャリア教育と関連付けた総合的な学習の時間 授業や活動を通した思いを伝える表現力・コミュニケーション能力の育成
Ⅳ	自己実現の土台となる心身の健康とキャリアと育む	生徒が生活習慣を身に付け多様性を尊重しながら安心して健康な学校生活を送っている。未来大館市民として必要な資質・能力と、自己の将来に必要なキャリアを主体的に身に付けようとしている。			6	自己決定力育成	生徒 指導部	（９）自己肯定感を育む生徒指導	生活習慣の確立と共通理解・共通実践　生徒指導の３つの「み」　対話を意識した生徒理解 生徒理解に基づいた生徒支援と教育相談　生徒による自主的・自発的な部活動の支援
								（10）当事者意識を育む特別活動	共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動　心を揺さぶる学校行事と生徒会活動 進路指導とキャリア講話の充実　心の交流を図る地域ボランティア活動の推進
								（11）未来につながる保健安全指導	生徒による心身の健康管理や安全活動の支援　メディアコントロール・情報モラル教育の充実 外部講師の積極的活用による健康意識啓発

Ⅰ　学校運営・学校管理

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
教育目標の具現に向け、全教職員が重点を意識し主体的に取り組み、組織が機能している。生徒の安全が守られ学校環境が整えられている。学校運営や学校管理に、保護者や地域と連携して取り組んで いる。	中間	概ね良好	概ね良好	新校長の新経営方針のもとで、若年層が増えたことや主任職等４人が新任となったことなどもあり、職員室に新しい風が吹きチームでの新しい動きが育まれつつある。経営方針の土台はできているようなので、より意識を統一し継続を力として更に積み上げていってほしい。職員アンケートを「全体」と「個人」とに分けて実施したことが、今後の学校運営に生きてくると思われる。期待を込めて、良好に近い概ね良好とした。
	年度	良　好	良　好	先生方が個人のもち味を生かしながらもチームとして向上している。全員が同じ方向に向かって努力したからこそ、教職員アンケート結果が上向いており、互いに満足し手応えを感じているものと考えられる。運営組織の再編成が高評価を得ている。今後さらに生徒数が減少していく中、PTA組織も改編が進んだことがよかった。地域との連携もしっかりと取れている。来年度の拡大版「南中しゃべり場」には、計画通り地域住民も一緒に参加させてもらえることを期待する。

学校の改善策と自己評価の概要

【中間（→年度）】

1(1)職員の意思統一と組織力アップについては、職員アンケート（個人）に課題が見られる。各分掌で新任主任等が多い中で1学期の教育活動を進めてきたが、Ⅱの取組とも連携し職員会議までの流れを改善したことで、一人一人がより見通しと担当としての責任をもって能動的に考え行動する組織を目指す。1(2)地域連携については、小中合同の「みなみ大運動会」や民生委員、児童委員との情報交換等、ねらいを明確にし実施することができた。2学期は60周年記念集会と小中合同記念祝賀会を予定している。保護者、小学校、地域と連携し、計画を進めていく。

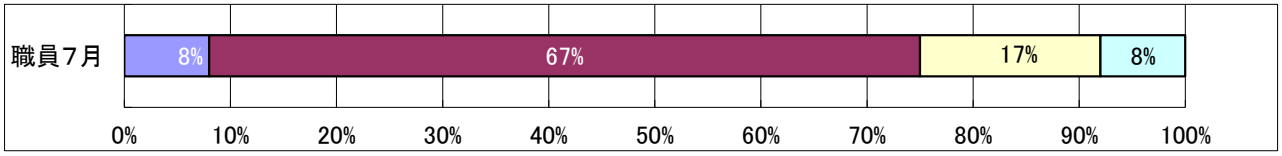
【年度（→次年度）】

教職員アンケートを中間と比較すると、1～3で「4」と評価した教職員が大きく増えた。南中祭や60周年記念集会など、生徒の成長を実感する場面がたくさんあったこと、クマ出没や地震などの事案が頻発したが一人一人が能動的に動いて対応できた結果であると捉えている。施設・設備の管理・維持については、老朽化が目立つ校舎ではあるが、日々の校務主事の誠実な仕事ぶりと迅速な対応のおかげもあり、生徒も職員も安全・安心に過ごすことができている。しかし、学校だけでは対応できない校舎・校地の問題を多く抱えており、今後もPTAや地域の力も借りながら生徒の安全を確保していく。また、生徒数の減少に伴って、南中部活動の見直しと地域展開へのロードマップの実現を図るとともに、保護者数減少に見合ったPTA組織と予算の見直しを実施してきた。今年度はそれが形として整理され、保護者や小学校への説明が完了している。持続可能な学校を目指し、これからも保護者や地域との連携を図りながら、新たな「南中学校」を築いていく。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 中間	自己評価B 年度
1　組織的運営	(1) 意識統一と組織力アップ	重点の明確化と共通理解・共通実践の強化　学校運営機構や組織の見直し PDCAサイクルの確立	3	4
	(2) ゆるぎない学校安全	感染症・熊対策等の危機管理と安全確保の徹底　外部機関とのスムーズな連携		
	(3) 教育活動を支える校務	教育効果を高める予算配分・予算獲得と計画的で適切な執行　施設・設備の管理・維持		
2　地域連携	(4) 地域とともにある学校づくり	ふるさとキャリア教育を根幹に据えた地域との連携強化　PTA・体育文化後援会の再構築　南学区学校運営協議会・保小中連携事業・地域コーディネーターとの連携充実　学校報、学年通信、HP等による情報発信　創立60周年記念行事の実施	4	4

(1)に関するデー（「アンケート結果」P2より）
職　員　：重点の明確化と共通理解・共通実践の強化、学校運営機構や組織の見直し、PDCAサイクルの確立などにより、
【全体】　教職員の意識統一と組織力アップが図られている。

(1)に関するデー（「アンケート結果」P3より）
職　員　：PDCAサイクルを意識した学校運営により、働き方改革や業務改善が行われていますか。(3.0)
【個 人】教職員の意識統一と組織力アップが図られている。



そう思う　だいたいそう思う　あまり思わない　思わない

10月19日「創立60周年記念集会」全校合唱「いつまでも」

11月29日PTA拡大版「南中しゃべり場」

12月イスのやすりがけ

Ⅱ　組織的実践力を高める創意ある企画

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
指導部や学年部を超えた共通実践のために全職員に企画 が示され共通理解が図られて いる。	中間	概ね良好	概ね良好	委員からは見えづらい部分だが、評価書や校長の説明等から学校で取り組んでいる内容や、先生方が一生懸命やってくださっていることがよく伝わってくる。会議の流れの変更や直耕タイムの共通実践については、まだまだよくなると感じる。特に、教職員アンケートがあまり高くない直耕タイムの充実を中心に、後半は組織として力を入れ、向上することを期待する。
	年度	概ね良好	概ね良好	ゴールが見える施策や会議の流れ、その他の様々なを工夫することで、チームワークよくスムーズに取り組んでいることがよい。今後も工夫改善を継続し、より一層、組織的な共通実践をしてほしい。生徒は「直耕タイム」や「南中参観」に意欲的であるが、これらに関する各アンケートの数値は高くはない。課題が明らかになっているので、具体的な解決策を次年度は改善を期待する。

自己評価の概要と学校の改善策

【中間（→年度）】

(5) について、2学期から「指導部会」→「運営委員会」→「職員会議」の流れで実施し、各指導部・学年部の縦と横の連携の強化を図った。その結果、職員会議での協議に時間を割けるようになった。変更があった場合には、校務支援システムを活用して共通理解に努める。また、担当職員が休んだ場合の対応について、担当は先を見越した余裕のある日程で企画、実践するよう心掛け、指導部長を中心にチェックできるような体制作りを徹底していく。(6)について、全体評価（3.1）に対し、個人の取組状況は（2.4）と低い。研究主題実現のための共通実践の提示の仕方や研究の進め方に課題があった。各教科で生徒主体の様々なスタイルの「直耕タイム」を実践するために、2学期も教師による授業を見合う会や生徒による南中参観を確実に実施する。

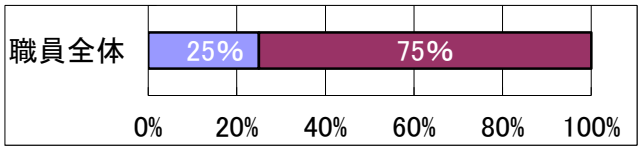
【年度（→次年度）】

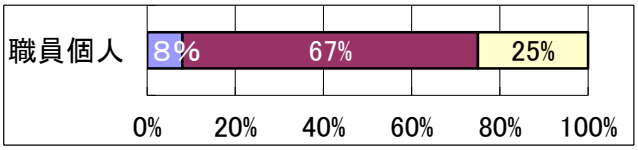
(5)について、2学期から「指導部会」→「運営委員会」→「職員会議」の流れで実施し、各指導部・学年部の縦と横の連携の強化を図った。その結果、職員会議で重要な協議に時間を割けるようになった。変更の連絡等は、校務支援システムを活用して共通理解に努めたい。担当職員が休んだ場合の対応について、担当は先を見越した余裕のある日程で企画、実践するよう心掛け、指導部長を中心にチェックできるような体制作りを徹底したい。(6)について、全体、個人ともに数値は微増。昨年度から生徒司会による「直耕タイム」に取り組んできたが、ねらいを達成するには難しさを感じている。各教科で実践している生徒主体の様々なスタイルの「直耕タイム」を集約し、次年度の授業改善と重点事項につなげる。授業を見合う会は、各種訪問や南中参観と兼ね負担を軽減することで、確実に実施する。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 中間	自己評価B 年度
3　企画と調整	(5) 組織が活性化する企画と調整	教育目標具現のための創意ある教育課程編成 指導の見通しを保障する計画と予定の提示 教育効果を上げる日課の工夫と時数調整 適切な会議設定と指導部･学年部との連絡調整	3	3
4　企画と実践	(6) 組織が機能する企画と実践	日常的な仮説検証に基づく研究主題の実現 諸調査の分析と活用による課題の明確化と焦点化 教科や指導部の壁を超えた校内研修の充実 「直耕タイム」を核にした授業改善		

(5)に関するデータ

職 員 ： 教育目標具現のための創意ある教育課程編成、指導の見通しを保障する計画と予定の提示、教育効果を上げる日課の工夫と時数調整、適切な会議設定と指導部・学年部との連絡調整など、組織が活発化する企画と調整が行われている。





よい　だいたいよい　やや不十分　不十分

南中参観

授業を参観シートを活用して評価（めりはり、発表、反応）

生徒主体の「直耕タイム」

Ⅱ－４－(6)に関するデータ

職 員 ：　日常的な仮説検証に基づく研究主題の実現、諸調査の分析と活用による課題の明確化と焦点化、教科や指導部の壁を超えた校内研修の充実、「直耕タイム」を核とした授業改善など、組織が機能する企画と実践が行われている。

全体評価(3.1)　　**個人評価(2.4)**

Ⅲ　自己実現を支える学力と学び方を育む

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
生徒が自律した学習習慣を身に付け、基礎学力を高めている。自分に必要な力を主体的に求め、学びを深めている。	中間	概ね良好	概ね良好	自己表現が苦手という生徒の実態を踏まえ、昨年度から「南中しゃべり場」など工夫した取組を行った結果、数値に成果として現れた。生徒の自己評価も昨年度よりよくなっている。教職員アンケート数値や自由記述から思いや責任感が伝わってきて、好感がもてる。他の先生方の立場も考慮し、共感しながら提案されている。その思いを生徒たちに返し、今後、生徒個々の「分からない」「できない」にしっかり対応して学力を高めてほしい。
	年度	概ね良好	概ね良好	直耕タイムを大切にし目的をもって取り組んでいる生徒もいるので、更に工夫しながら継続してほしい。1年時から個に対する支援がなされており、それが3年時の姿につながっている。3年生は、教師の一方的な授業ではなく生徒同士で学び合っており、全体とは違う意見でも堂々と話すことができることが素晴らしかった。見栄えのよい授業より、生徒にとって分かりやすい授業や個に応じた指導を大事にしながら、目に見える学力の向上に努めてほしい。

学校の改善策と自己評価の概要

【中間（→年度）】

(7)と(8)どちらも保護者の評価が高く、生徒・教職員評価との差があまりない。各学年の回答結果に差があり、特に3年生の(7)の数値、1年生の(8)の数値が低いことについて改善を図る必要がある。(7)について、保護者の要望にもあるように授業中に理解・定着させる取組や補充学習を充実していくが、希望生徒が参加しやすいこと、教職員の過度の負担にならないことに留意して実施する。(8)について、1年生の出番も意図的につくるなど支援していく。

【次期（→次年度）】

保護者評価に比して生徒評価が低く教職員評価は更に低いことから、(7)(8)どちらも問題点を自覚できていることが伺える。(7)について、補充学習の実施方法を改善したが保護者に十分伝わっていないと思われるので周知していく。(8)について、教職員の全体評価が下がっている。生徒の主体性を引き出す指導や支援の工夫をしていく。

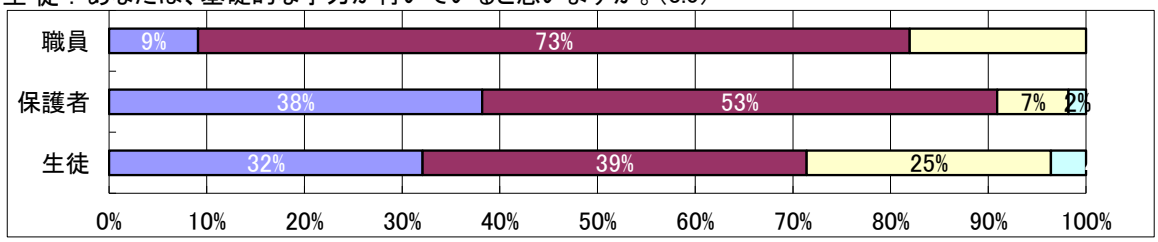
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 中間	自己評価B 年度
5　学力向上	(7) 基礎学力を高める学習指導	3つの「あ」3つの「わ」のある授業づくり　生徒の「？」や「！」を引き出す手立ての工夫　キャリア発達を促す振り返り　生徒と教師が一体となった取組の推進　補充学習の工夫と充実	3	3
	(8) 主体的行動を支える学びの充実	考え議論する道徳の充実と蓄積　課題発見能力・課題解決能力を育てる総合　授業や活動を通した思いを伝える表現力・コミュニケーション能力の育成	3	3

(7)に関するデータ

職 員：基礎学力を高める学習指導が行われている。(2.9)

保護者：基礎学力を高める学習指導への取組はどうですか。(3.3)

生 徒：あなたは、基礎的な学力が付いていると思いますか。(3.0)

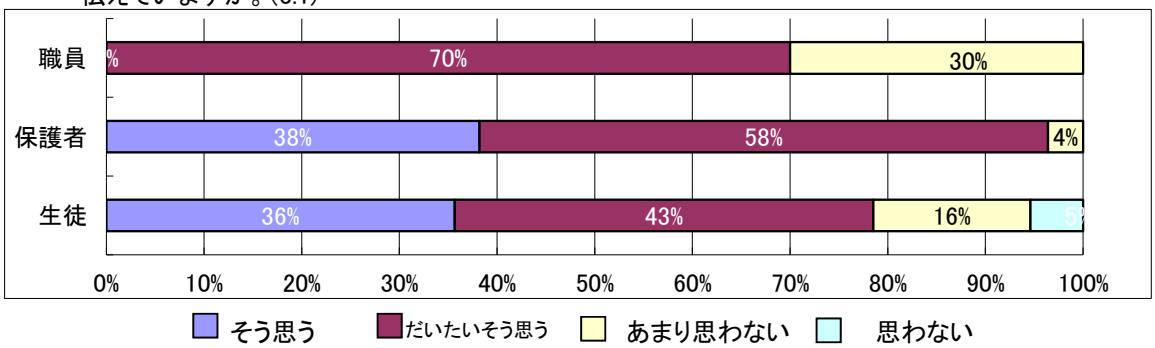


(8)に関するデータ

職 員：主体的行動を支える学びの充実が図られている。(2.9)

保護者：主体的なコミュニケーション能力を育てる取組はどうですか。(3.3)

生 徒：あなたは、南中しゃべり場や、その他の意見・感想などを求められる場面で、自分の思いや考えを伝えていますか。(3.1)



南中参観後の課題改善に向けた話合い
（南中しゃべり場）

南中トライ60スタート集会

Ⅳ　自己実現の土台となる心身の健康とキャリアを育む

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
生徒が自律した生活習慣を 身に付け、多様性を尊重しな がら安心して健康な学校生活を送っている。未来大館市民として必要な資質・能力と、自己の将来に必要なキャリアを身に付けようとしている。	中間	概ね良好	良　好	生徒の自己肯定感の高さは、縦割り活動の充実、家庭の教育力、協力的な地域の存在が大きい。子どもハローワークへの参加数が大幅に増加したことも生徒のキャリア形成によい影響を与えている。南中生は素直で真面目であり、ひたむきな態度に好感がもてる。公民館等を訪れる際「今日は楽しみにしてきました。よろしくお願いします」などの気配りを感じるあいさつがとてもよく、マナーも守られている。 一方で、メディアコントロールと読書に関しては課題が見られるが、家庭を巻き込んだ取組で昨年度よりも評価は上がっている。難しい問題だが引き続きよろしくお願いしたい。
	年度	良　好	良　好	メディアコントロールに関しては、生徒への地道な指導の継続や家庭を取り込んだ意識の向上、睡眠講話等の取組などが功を奏し、改善されている。保護者の数値が向上していることが素晴らしい。まだ個人差が大きいように感じるので、引き続き家庭にも働きかけ改善を促してほしい。メディア以外の取組についても、生徒の姿で成果が見られる。南中生のよさを伸ばし苦手を克服することで、必要なキャリアをしっかりと身に付けさせてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【中間（→年度）】

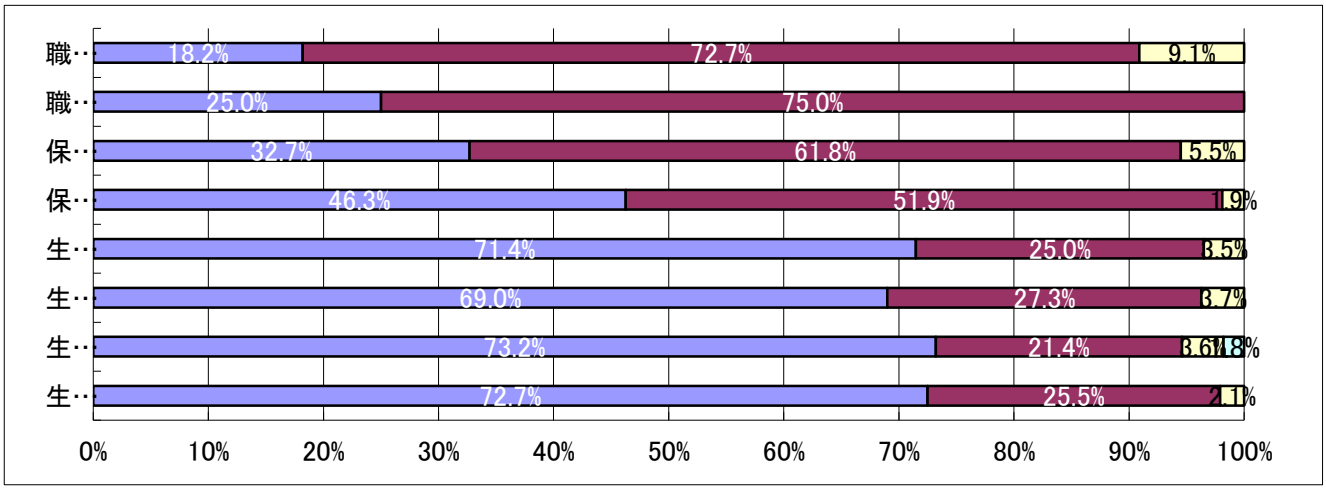
自己肯定感を育む生徒指導については、職員・保護者・生徒共に肯定的な回答が多かった。特に1年生は肯定的回答のみだった。2・3年生にネガティブ回答をした生徒が少数ではあるが存在するので、今後も個別の生徒理解と対応に力を入れていく。特別活動については、三者ともに平均値が高く、充実した取組ができていると感じる。子どもハローワークについても2・3年生が積極的に参加していた。引き続き1年生にも声をかけていく。また、Q-Uの結果に基づいて各学年の状態に応じた学級経営を展開していく。保健安全指導についても肯定的な回答が多いが、メディアコントロールに関しては生徒と保護者間でギャップが見られる。生徒はもちろん、保護者への啓発が大きな課題である。

【次期（→次年度）】

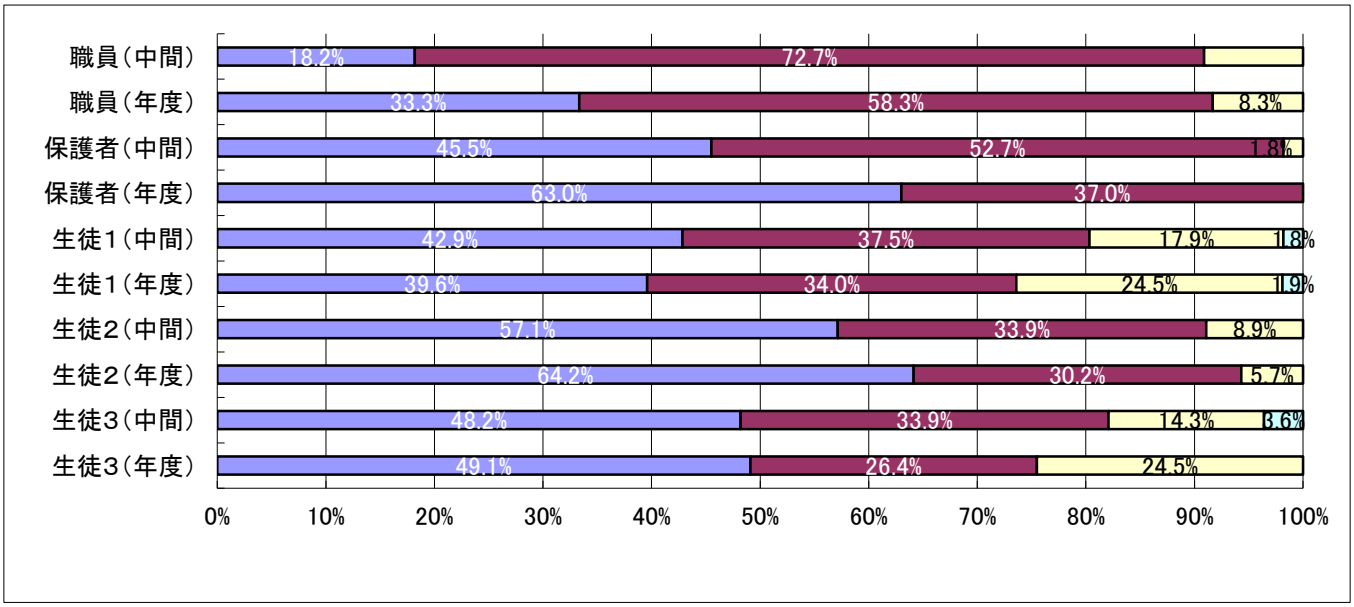
どの項目も、職員と保護者の数値が上がっている。自己決定と生徒理解に重点を置いて生徒支援や教育相談を行ってきたことや、Q-Uを活用した校内研修会を実施できた成果とみられる。1年生においては、フォーサイトの活用について大幅に改善された。メディアコントロールについては、生徒・保護者共に、肯定的な回答が微増している。ただし、保護者の「やや不十分」という回答が微増していることから、根気強い取組を行うとともに、家庭にも課題として投げかけていく。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 中間	自己評価B 年度
6 自己決定力育成	(9) 自己肯定感を育む生徒指導	生活習慣の確立と共通理解・共通実践 生徒指導の3つの「み」 対話を意識した生徒理解 生徒理解に基づいた生徒支援と教育相談 生徒による自主的・自発的な部活動の支援	4	4
	(10)当事者意識を育む特別活動	共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動 心を揺さぶる学校行事と生徒会活動 進路指導とキャリア講話の充実 心の交流を図る地域ボランティア活動の推進		
	(11)未来につながる保健安全指導	生徒による心身の健康管理や安全活動の支援 メディアコントロール・情報モラル教育の充実 外部講師の積極的活用による健康意識啓発	3	3

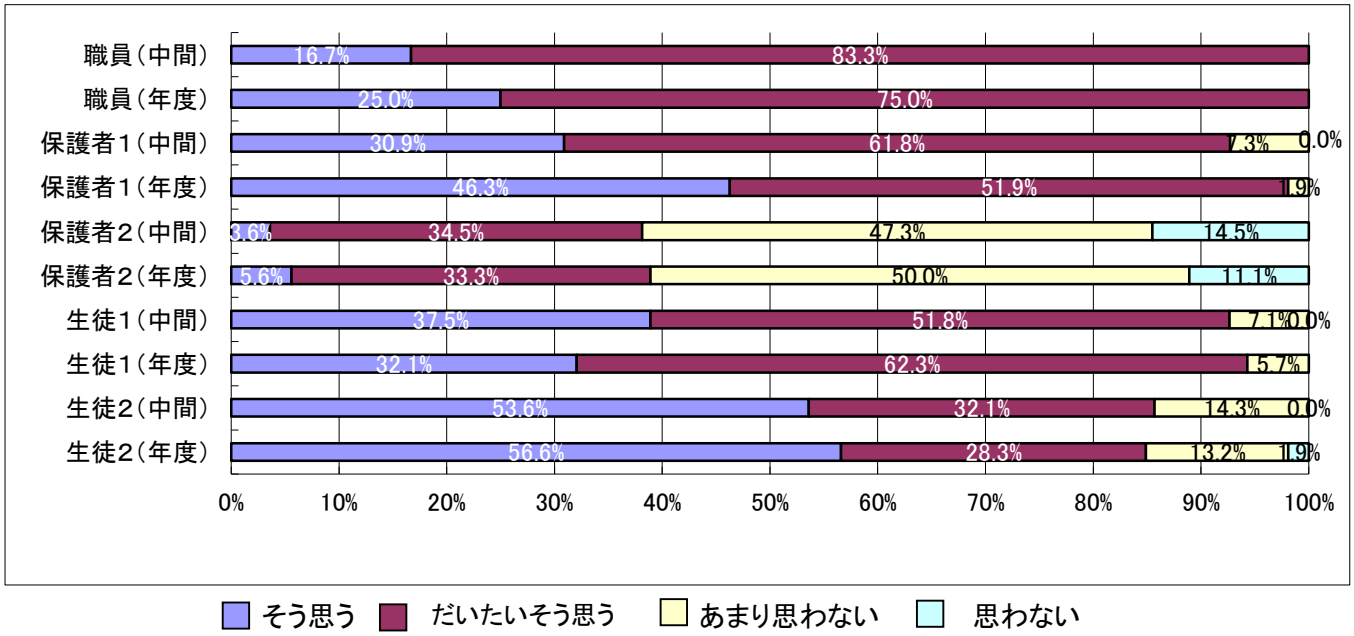
(9)に関するデータ
職 員 ： 自己肯定感を育む生徒指導が行われている。(3.1→3.3)
保護者： 自己肯定感を育む生徒指導への取組はどうですか。(3.3→3.4)
生　徒 自分には、良いところも、悪いところもある、と思います。(3.7→3.7)　※SOBA-SETアンケートより
生　徒 生まれてきてよかった、と思います。(3.7→3.7)　※SOBA-SETアンケートより



(10)に関するデータ
職 員 ： 当事者意識を育む特別活動が行われている。(3.3→3.3)
保護者： 当事者意識を育む特別活動への取組はどうですか。(3.4→3.6)
生徒1： あなたは、学校行事や地域ボランティアなどに積極的に取り組んで、感動したり心の交流を図ったりしていますか。(3.2→3.1)
生徒2： あなたは、生徒会テーマ「上昇喜膨」のもと、委員会活動や学級活動に工夫したり協力したりして、自分事として取り組んでいますか。(3.5→3.6)
生徒3： あなたは、いろいろな体験活動やキャリア講話を生かして、自分の将来のことについて考えたりイメージをもったりしていますか。(3.3→3.2)



(11)に関するデータ
職 員 ： 未来につながる保健安全指導が行われている。(3.2→3.3)
保護者1： 未来につながる保健安全指導への取組はどうですか。(3.2→3.4)
保護者2： ご家庭で、メディアコントロールを適切に行っていますか。(2.3→2.3)
生　徒 あなたは、情報モラルを守り、メディアコントロールができていますか。(3.2→3.3)
生　徒 あなたは、自分の心と体の健康を意識して生活していますか。(3.4→3.4)



南中祭の学年発表(10月)

生徒会役員選挙の様子(10月)

小中交流会(12月)